

## 仙台市の文化芸術を取り巻く状況について

### 1 仙台市の人口動態

仙台市の人口は、明治 22（1889）年の市制施行以来ほぼ一貫して増加傾向にあり、平成 11（1999）年 5 月には人口が 100 万人に到達し、現在、およそ 109.7 万人となっています。将来推計人口については、全国と比較して減少の割合は小規模にとどまるものの、一定程度の減少が見込まれている状況です。

就業・就学地として周辺地域に対してどれだけ影響力を持っているかを示す昼夜間人口比率をみると、その比率が 100 以上であり、周辺地域における中心性を持っていることがわかります。興行や展示などの文化芸術活動は、文化芸術に対する趣味・嗜好が、ジャンル毎、アーティストや作品ごとに極めて多様なことから、大きな後背地人口がないと発展しにくい傾向にあります。昼夜間人口比率（常住人口 100 人当たりの昼間人口の割合）が比較的高い仙台市は、通勤・通学圏を背景に広く抱えている分だけ、人口規模を上回る集客力が期待でき、文化芸術の興行や展示などのイベントが実施しやすい環境にあると考えられます。

また、産業別就業人口を見ると、商業・サービス業を中心とした第三次産業の比率が高くなっています。文化芸術活動は、多様な専門サービス業の支えの上に成り立つものであり、その発展には第三次産業の集積が欠かせません。この点からも、仙台市は文化芸術活動が行いやすい環境にあると考えられます。

項目	全国	仙台市
人口	126,146,099	1,096,704
15 歳未満	15,031,602 (11.9%)	128,995 (11.8%)
15~64 歳	75,087,865 (59.5%)	703,907 (64.2%)
65 歳以上	36,026,632 (28.6%)	263,802 (24.1%)
外国人	2,747,137 (2.2%)	13,514 (1.7%)
2045 年人(2015 年比)	106,421,000 (83.7)	922,655 (92.5)
昼間人口	126,146,099	1,154,586
昼夜間人口比	100	105.3
産業別就業者人口比	一次 3.2 二次 23.4 三次 73.4	一次 0.8 二次 15.9 三次 83.4

出所) 将来推計人口のみ国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」、その他は令和 2（2020）年国勢調査

(参考) 学生の数

仙台市は「学都仙台」と呼ばれ、東北大学をはじめ多くの大学・大学院や短期大学などがあります。学校基本調査での大学の状況を全政令指定都市と比較したところ、仙台市では、特に大学院生および大学教員が人口に占める比率が高く、大学が、市の人口や経済社会活動の中で、他市と比べて相対的に大きな位置を占める「学都」に相応しい状況となっていることがわかります。

●全政令指定都市中の上位5市（人口比ベース）

単位（人）

	大学 学生数	人口	人口比
京都市	145,656	1,463,723	9.95%
神戸市	70,716	1,525,152	4.64%
福岡市	72,390	1,612,392	4.49%
名古屋市	103,609	2,332,176	4.44%
<b>仙台市</b>	<b>48,191</b>	<b>1,096,704</b>	<b>4.39%</b>

	大学院生数	人口	人口比
京都市	16,593	1,463,723	1.13%
<b>仙台市</b>	<b>7,346</b>	<b>1,096,704</b>	<b>0.67%</b>
福岡市	7,397	1,612,392	0.46%
岡山市	3,258	724,691	0.45%
名古屋市	10,325	2,332,176	0.44%

	本務教員数	人口	人口比
京都市	9,905	1,463,723	0.68%
<b>仙台市</b>	<b>4,626</b>	<b>1,096,704</b>	<b>0.42%</b>
福岡市	5,526	1,612,392	0.34%
岡山市	2,415	724,691	0.33%
新潟市	2,090	789,275	0.26%

出所) 文部科学省 学校基本調査 / 令和3年度 高等教育機関《報告書掲載集計》 学校調査 大学・大学院 \*人口は令和2(2020)年国勢調査より

※「大学 学生数」については、学部学生のほか大学院、専攻科及び別科の学生並びに科目等履修生等を含む。

## 2 文化関連の就業者数

国勢調査をもとに平成 22（2010）年から令和 2（2020）年までの 10 年間の文化関連の就業者数の推移をみると、全国・仙台市ともにその数は増加傾向にあります。なお、首都圏等、人口規模の大きい市ほど文化関連就業者の総人口に占める割合が大きくなる傾向があり、本市の割合は全国平均よりは若干低くなっています。

職種ごとに傾向をみると、全国的には「記者・編集者」「図書館司書・学芸員」「個人教師（音楽）」「個人教師（舞踏家・俳優・演出家・演芸家）」の数が、10 年前と比べて減少していますが、仙台市の場合はそのいずれの職種も 10 年前を上回っています。また、特にこのうち「個人教師（音楽）」の人口 10 万人あたりの人数を全政令指定都市と比較すると、仙台市は 72.0 人と、比較的上位に位置していることが分かります。

単位（人）

職種 \ 年	全国			仙台市		
	H22 2010	H27 2015	R2 2020	H22 2010	H27 2015	R2 2020
著述家	24,930	25,290	30,130	70	140	230
記者・編集者	85,050	78,730	83,930	650	580	710
彫刻家・画家・工芸美術家	31,200	37,820	47,320	180	250	290
デザイナー	179,570	193,830	201,100	1,420	1,490	1,930
写真家・映像撮影者	65,540	63,970	69,170	610	590	620
音楽家	22,770	23,180	26,080	150	300	180
舞踏家・俳優・演出家・演芸家	51,030	53,960	62,160	360	210	270
図書館司書・学芸員	32,610	27,860	31,080	220	220	240
個人教師（音楽）	77,500	70,330	70,110	750	860	790
個人教師（舞踏家・俳優・演出家・演芸家）	20,100	21,090	19,810	110	130	140
合計	<b>590,300</b>	<b>596,060</b>	<b>640,890</b>	<b>4,520</b>	<b>4,770</b>	<b>5,400</b>
総人口	128,057,352	127,094,745	126,146,099	1,045,986	1,082,159	1,096,704
総人口に占める割合	0.46%	0.47%	0.51%	0.43%	0.44%	0.49%

出所）平成 22 年・平成 27 年・令和 2 年国勢調査より

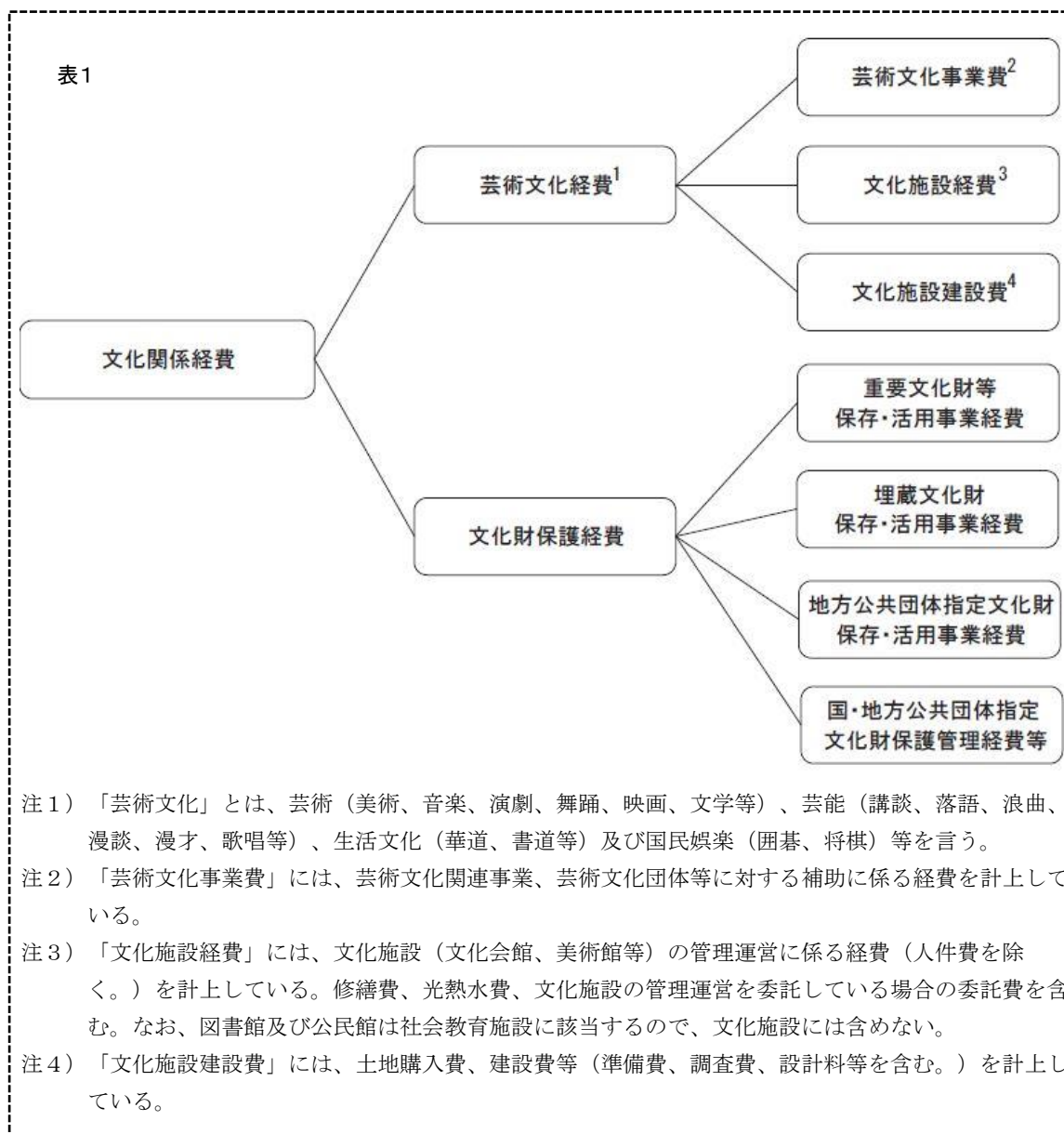
### ●個人教師（音楽）の人口 10 万人あたり数・全政令指定都市中上位 5 市 単位（人）

	就業者数	総人口	10 万人あたり数
浜松市	630	790,718	79.7
川崎市	1,140	1,538,262	74.1
新潟市	580	789,275	73.5
<b>仙台市</b>	<b>790</b>	<b>1,096,704</b>	<b>72.0</b>
名古屋市	1,650	2,332,176	70.7

出所）令和 2 年国勢調査より

### 3 文化関係経費

文化関係経費の現状については、文化庁が取りまとめている「地方における文化行政の状況について（令和2年度）」により概況が示されています。ここで対象とするのは、以下の経費です。

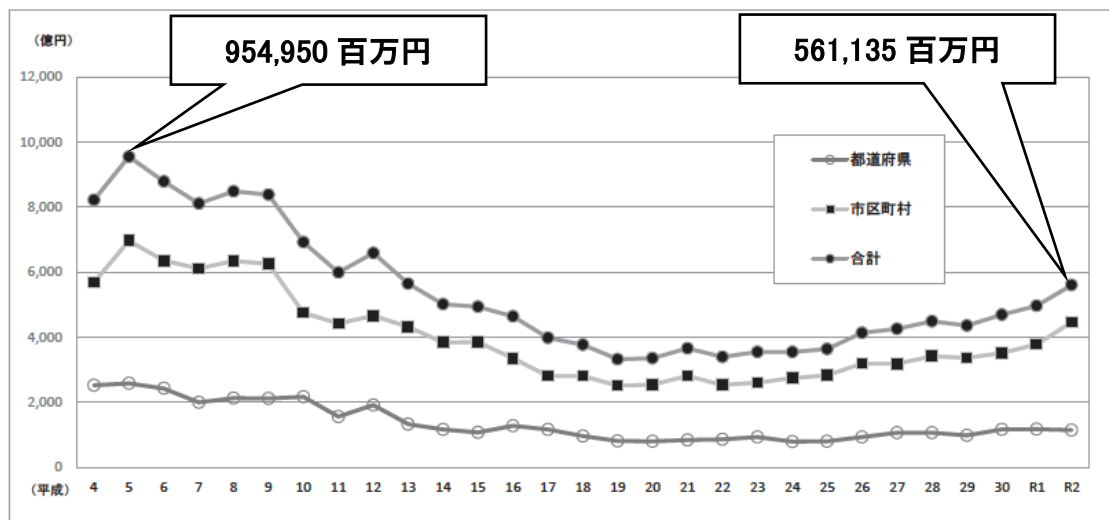


全自治体の文化関係経費は、平成5（1993）年の954,950百万円をピークとして、令和2（2020）年には561,135百万円へと半分近くに減少しています。このうち、特に減少が著しいのが芸術文化経費のうちの文化施設建設費で、ピークの平成5年の587,868百万円から令和2年の114,407百万円へと、5分の1程度に激減しています。

【文化関係経費】

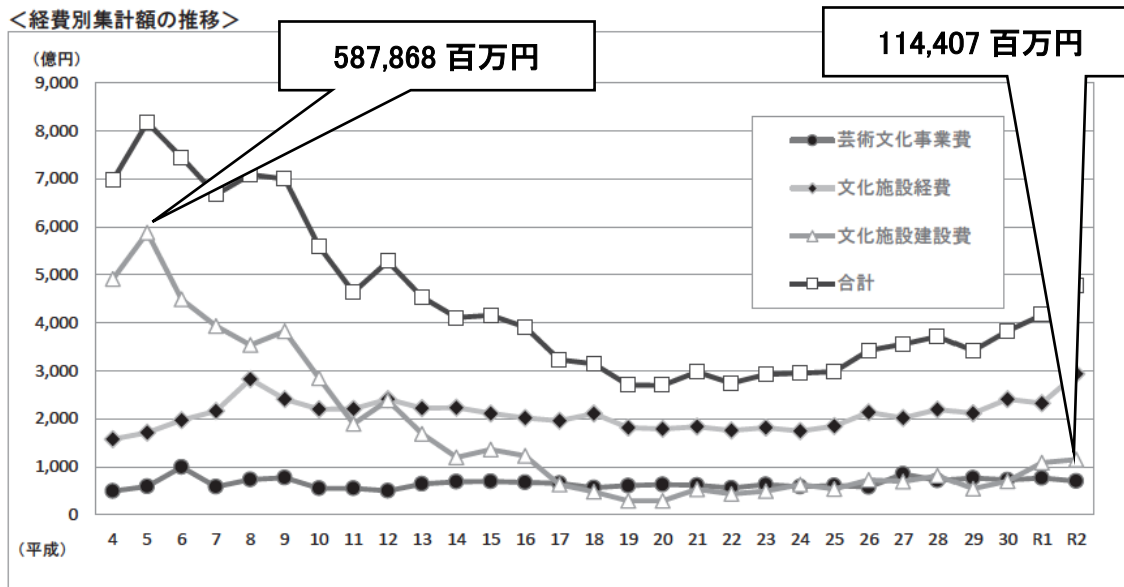
表2

＜都道府県・市区町村別集計額の推移＞



【芸術文化経費】

＜経費別集計額の推移＞



令和2年度の自治体別の文化関係経費をみると、仙台市の「芸術文化経費」については、全政令指定都市と比べて比較的上位に位置しています。

※なお、各経費の考え方については、文化事業費に文化事業を推進する外郭団体への補助金を含むかどうかや、施設経費に事業費を含むかどうかなど、自治体ごとにばらつきがあるため、この数値によってのみ予算の多寡を判断することは難しく、参考にとどまることに留意する必要があります。

〈令和2年度政令指定都市・教育委員会及び首長部局の合算（芸術文化経費）〉（千円）

	芸術文化事業費	文化施設経費	文化施設建設費	計（建設除く）	計（建設含む）
札幌市	807,825	4,152,843	0	4,960,668	4,960,668
<b>仙台市</b>	<b>949,970</b>	<b>2,619,638</b>	<b>0</b>	<b>3,569,608</b>	<b>3,569,608</b>
さいたま市	428,141	1,569,291	5,935,552	1,997,432	7,932,984
千葉市	382,474	851,606	8,800	1,234,080	1,242,880
横浜市	2,484,327	3,599,877	2,553,942	6,084,204	8,638,146
川崎市	615,066	1,224,092	0	1,839,158	1,839,158
相模原市	180,013	978,863	0	1,158,876	1,158,876
新潟市	616,399	1,508,843	0	2,125,242	2,125,242
静岡市	517,479	763,348	56,274	1,280,827	1,337,101
浜松市	206,625	1,724,483	4,149,009	1,931,108	6,080,117
名古屋市	1,096,031	2,734,282	0	3,830,313	3,830,313
京都市	1,133,115	4,133,378	0	5,266,493	5,266,493
大阪市	267,728	3,146,649	4,973,226	3,414,377	8,387,603
堺市	335,750	1,650,997	0	1,986,747	1,986,747
神戸市	682,992	2,416,812	197,512	3,099,804	3,297,316
岡山市	208,598	299,305	2,034,854	507,903	2,542,757
広島市	314,654	431,222	0	745,876	745,876
北九州市	951,665	2,124,068	392,000	3,075,733	3,467,733
福岡市	501,730	2,824,513	0	3,326,243	3,326,243
熊本市	277,859	1,922,340	10,271	2,200,199	2,210,470

〈令和2年度政令指定都市（文化財保護経費）〉

（千円）

	国指定文化財等保存・活用事業経費	地方公共団体指定文化財保存・活用事業経費	国・地方公共団体指定文化財保護管理経費等	計
札幌市	47,848	6,877	20,249	74,974
<b>仙台市</b>	<b>97,172</b>	<b>0</b>	<b>1,701</b>	<b>98,873</b>
さいたま市	279,935	4,687	53,413	338,035
千葉市	277,701	8,778	117,229	403,708
横浜市	146,893	3,777	935,418	1,086,088
川崎市	213,362	64,917	8,079	286,358
相模原市	31,109	12,154	13,713	56,976
新潟市	206,072	0	419,805	625,877
静岡市	942,360	4,479	13,525	960,364
浜松市	171,389	70,668	85,263	327,320
名古屋市	303,602	74,911	12,371	390,884
京都市	668,445	0	447,785	1,116,230
大阪市	2,064,168	0	8,614	2,072,782
堺市	34,307	72,953	3,636	110,896
神戸市	301,804	36,081	108,726	446,611
岡山市	354,851	1,151	37,064	393,066
広島市	143,096	7,821	9,414	160,331
北九州市	186,373	1,334	18,123	205,830
福岡市	551,737	61,314	298,321	911,372
熊本市	1,289,146	362,136	22,763	1,674,045

出所）地方における文化行政の状況について（令和2年度）（表1・表2・各経費の状況）

## 4 文化施設の状況

### ①市内に立地する主要ホール等施設

音楽や演劇などの実演芸術の公演の場となるホール系施設については、青年文化センターが本市の文化芸術振興の中核拠点として、劇場法において求められる新たな文化芸術の創造・発信に積極的に取り組むとともに、それらを担う人材の育成に携わっています。また、各区に所在する文化施設（仙台市民会館・戦災復興記念館・泉文化創造センター・広瀬文化センター・区文化センター）においては、興行の場としての活用にとどまらず、市民が身近に文化芸術に触れられるよう、市民の文化芸術活動に対しての場の提供を行うほか、施設ごとに特色ある事業を実施しています。

このほか、市内に60館が所在する市民センターでは、生涯学習の観点から文化芸術に関する事業を多数実施しているほか、市民主体による文化芸術に関する多様な活動の練習や発表の場として活用されています。

より広域に、国内外を視野に展開される大規模な文化芸術公演の開催拠点としては、宮城県民会館や仙台サンプラザホール等がありますが、現時点で、固定座席、固定舞台を持つホールでは宮城県民会館（1,590席）が最大であり、全国に50以上ある2,000席クラスのホールが市内には立地していない状況です。政令指定都市で2,000席クラスの公共ホールがないのは仙台市以外では千葉市と相模原市（いずれも1,790席のホールあり）、大阪市（2,000席超の民営施設あり）のみとなっています。東北6県の中では、宮城県および仙台市が最大の人口を抱えています。宮城県のみ2,000席クラスのホールを有していない状況にあります。

また、宮城県民会館（開館1964年）は築60年に迫り、仙台市民会館（開館1973年）も築50年をむかえるなど、施設の老朽化も進行しています。全国的にも、文化施設建設費のピークであった1993年から約30年が経過したことで、自治体が建設した文化施設の多くは老朽化し、建て替えや大規模改修の時期を迎えており、文化施設を含む公共施設の今後のあり方は大きな課題となっています。

こうした背景を踏まえ、本市では、生の音源に対する音響を重視した2,000席規模のホールを備え、プロフェッショナルも市民も使いやすく、仙台がこれまで蓄積してきた文化芸術資源をより一層発展させていく内発的な創造・育成の拠点とすることをめざし、新たな施設の整備検討を進めています。また、宮城県においても、宮城県民会館の建て替えに向けた整備検討が進められています。施設規模としては本市と同様に2,000席規模のホール施設を備えることが想定されていますが、現時点で県が公表している主なホール施設の機能概要は、「国内外の著名なアーティストによるポピュラー音楽や大型ミュージカルをはじめとした各種公演及び大会・集会利用を想定し、劇場型（プロセニウム形式）で、客席数は2,000～2,300席程度の電気音響を重視しテクノロジーの進化に対応した多目的ホール」とされており、本市と役割分担が図られている状況です。今後も引き続きハードの特性やソフトの運営面での役割分担を図りつつ、新たな施設の整備検討を進めていきます。



■政令指定都市における2,000席規模ホールの状況（1,800席から2,500席程度までのホール）

都市名	ホール名（主ホール）	席数	特性	年	併設ホール 管理運営組織
札幌市	札幌コンサートホール（市） （Kitara）	2,020	音楽専用	1997	音楽専用 459 席 指定：（公財）札幌市芸術文化財団
	札幌市民交流プラザ（市） 札幌芸術劇場	2,302	多機能劇場	2018	平土間 228 席 指定：（公財）札幌市芸術文化財団
仙台市	該当規模の公共ホールなし				
新潟市	新潟市民芸術文化会館（りゅーとびあ）コンサートホール	2,000	音楽専用	1998	劇場 903 席、能楽堂 387 席 指定：（公財）新潟市芸術文化振興財団
さいたま市	さいたま市文化センター 大ホール	2,006	多目的	1985	多目的 340 席 指定：（公財）さいたま市文化振興事業団
	埼玉県産業文化センター （ソニックシティ）	2,505	多目的	1988	多目的 496 席 指定：（公財）埼玉県産業文化センター
千葉市	千葉県文化会館 大ホール	1,790	多目的	1967	多目的 252 席 指定：（公財）千葉県文化振興財団
川崎市	川崎市スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）	2,013	多目的	2017	スポーツ施設と複合 指定：（株）アクサス川崎
	川崎シンフォニーホール（市） （ミュージア）大ホール	1,997	音楽専用	2004	多目的 150 席 指定：川崎市文化財団グループ
横浜市	横浜みなとみらいホール（市） 大ホール	2,034	音楽専用	1998	音楽専用 444 席 指定：（公財）横浜市芸術文化振興財団
	神奈川県立県民ホール本館 大ホール	2,493	多目的	1975	多目的 433 席 指定：（公財）神奈川芸術文化財団
相模原市	相模原市文化会館 大ホール	1,790	多目的	1990	平土間 240 席 指定：（公財）相模原市民文化財団
静岡市	静岡市文化会館 大ホール	1,978	多目的	1978	多目的 1,184 席 指定：静岡市文化振興財団共同事業体
浜松市	アクトシティ浜松（市） 大ホール	2,336	多機能劇場	1994	音楽専用 1,030 席 指定：（公財）浜松市文化振興財団
名古屋市	名古屋市民会館	2,296	多目的	1972	多目的 1149 席 指定：共立・名古屋共立共同事業体
	愛知芸術文化センター（県） 愛知県コンサートホール 愛知県芸術劇場	1,800 2,480	音楽専用 多機能劇場	1992	平土間 330 席 指定：（公財）愛知県文化振興事業団
京都市	京都会館（市） メインホール	2,005	多目的	2016 改修	多目的 716 席、平土間 200 席 指定：（公財）京都市音楽芸術文化振興財団
	京都コンサートホール（市） 大ホール	1,839	音楽専用	1995	音楽専用 514 席 指定：（公財）京都市音楽芸術文化振興財団
大阪市	該当規模の公共ホールなし（※民営施設あり）				
堺市	堺市民芸術文化ホール（市） （フェニーチェ堺）大ホール	2,000	多機能劇場	2019	多目的 312 席、平土間 220 席 指定：（公財）堺市文化振興財団
神戸市	神戸文化ホール（市） 大ホール	2,043	多目的	1973	多目的 904 席 指定：（公財）神戸市民文化振興財団
岡山市	岡山シンフォニーホール（市） 大ホール	2,001	音楽専用	1991	平土間 200 席、土間 100 席 指定：（公財）岡山文化芸術創造
	参考：岡山芸術創造劇場（市）整備中		多機能劇場	1,750 席	
広島市	広島市文化交流会館	2,001	多目的	1985	指定：広島アートウィンド運営企業体
北九州市	北九州ソレイユホール（市）	2,008	多目的	1984	ホテル等併設 普通財産 業務委託：（株）ケイミックスパブリックビジネス
福岡市	福岡県国際文化情報センター （アクロス福岡）福岡シンフォニーホール	1,874	音楽専用	1995	平土間 900 席、円形 100 席 指定：（公財）アクロス福岡
	参考：福岡市拠点文化施設整備中		多機能劇場	2,000 席	
熊本市	熊本県立劇場 コンサートホール	1,810	音楽専用	1982	劇場 1,172 席 指定：（公財）熊本県立劇場
	熊本城ホール（市） メインホール	2,304	多機能劇場	2019	多目的 750 席 指定：熊本城ホール運営共同事業体

注：（公社）公立文化施設協会会員施設で、実演芸術の利用を想定し、固定舞台、固定座席を有するホールを対象。  
一般的に大型ホールとされる1,800～2,500席程度を採録した。また、現在整備中のホールを参考として示した。  
注：多機能劇場とは従来の多目的ホールよりも実演芸術への設備機能が高く、舞台が広い施設を区別して記載した。

## ■東北地方における2,000席規模ホールの状況

東北地方各県の2,000席規模のホールの現状と計画

県	施設名	座席数	2020年1月1日 総務省住民基本台帳人口
青森県	青森市文化会館 大ホール（1982年開館） （多機能ホール）	2,037席	青森県 1,253,958人 青森市 277,378人
岩手県	岩手県民会館 大ホール（1973年開館） （多機能ホール）	1,993席	岩手県 1,213,473人 盛岡市 285,205人
秋田県	あきた芸術劇場 大ホール（2022年開館） （多機能ホール）	2,015席	秋田県 967,426人 秋田市 304,056人
山形県	山形県総合文化芸術館 大ホール（2020年開館） （多機能ホール）	2,001席	山形県 1,062,292人 山形市 242,284人
福島県	郡山市民文化センター 大ホール（1984年開館） （多機能ホール）	2,004席	福島県 1,847,880人 郡山市 318,437人
	参考 いわき芸術文化交流館（アリオス）（2008年開館） （多機能ホール）	1,840席	いわき市 318,490人
宮城県 （計画）	宮城県民会館（建替）大ホール	2,000-2,300 席程度	宮城県 2,259,562人 仙台市 1,052,299人

注：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

### ②市内に立地するその他の施設（本計画に関わりのあるミュージアム等）

- ・ギャラリーや図書館などの複合文化施設であるせんだいメディアテークは、市民の美術や映像文化の発信拠点です。また、自主企画の現代美術の展覧会や、デジタルアーカイブも特色のひとつです。株式会社日経BPが発行する建築専門誌「日経アーキテクチュア」が発表した「平成30年間を代表する建築ランキング」において総合第1位に選ばれた、世界的建築家の伊東豊雄氏による設計の建物は、国内外から多くの来訪者を日々受入れています。館長に哲学者の鷺田清一氏を迎え、その発信力も生かした運営を行っています。
- ・宮城県美術館は、戦後の日本建築界を代表する建築家前川國男氏の設計です。主なコレクションに明治時代以降の近現代美術、宮城県および東北地方にゆかりのある作品、カンディンスキーやクレーなど海外作家の作品、また、戦後日本の絵本原画などがあります。宮城県出身の彫刻家佐藤忠良記念館、作ることによって美術を体験することができる創作室も備えています。
- ・仙台市博物館は仙台伊達家から寄贈された文化財の保存・展示・研究のため、仙台城三の丸跡に昭和36年に開館、昭和61年には同地に新館に建て替え、現在に至ります。本市のみならず広く東北地方の歴史、美術、文化に関する資料の収集・保存、調査・研究、展示・公開、教育・普及を行いながら、楽しくわかりやすい、開かれた博物館運営に努めています。（現在、大規模改修工事のため、令和6年3月31日（予定）まで休館中。）
- ・仙台文学館は、郷土ゆかりの文学者を中心にその作品や関連資料を収集・保存し、調査研究や展示などの活動を通じて、散逸しがちな近代文学資料を公共の財産として一般に公開するとともに次代に伝えていくこと、ひいては文学の普及振興を通じて地域文化の発展に

寄与することを目的として建設されました。初代館長は作家の井上ひさし氏、2代館長に小池光氏（歌人）、3代館長に佐伯一麦氏（作家）といずれも文学史上顕著な業績をもつ仙台ゆかりの文学者を迎えています。

- 仙台市歴史民俗資料館は、明治初期の疑洋風建築で、旧日本陸軍の歩兵第四連隊兵舎として使われていました。令和5年に県有形文化財に指定（予定）。明治時代以降の庶民生活資料を対象に、展示や調査研究をしています。また、建物が兵舎建築であることから、軍隊や平和に関する資料の収集や活用にも積極的に取り組んでいます。
- 東日本大震災の経験や教訓および津波被災地域のかつての生活文化を伝える3.11せんだいメモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校、また仙台市科学館、仙台市天文台、地底の森ミュージアムや縄文の森広場などでは、一般観覧のほか、小中学生の体験学習を受け入れています。
- このほか、市有施設以外でも、東北大学、東北学院大学、東北福祉大学などにも博物館等が整備されており、特色ある資料や建物などを鑑賞することができます。

## 5 実演芸術の公演回数等について

### ①全国における宮城県の位置づけ

音楽・舞台芸術の公演回数や動員数の都道府県別データを見ると、平成31/令和元(2019)年において、宮城県は全都道府県中、音楽公演回数で8位、舞台芸術公演回数で10位に位置しています。公演の多くは仙台市内で開催されており、かなり大きな市場があると言えます。

音楽公演県別順位 (2019年)  
(上位15都道府県)

公演回数		動員数	
単位：回		単位：千人	
全国合計	61,068	全国合計	54,973
東京都	22,811	東京都	14,881
大阪府	7,097	大阪府	8,457
愛知県	5,304	愛知県	4,390
神奈川県	2,746	埼玉県	4,348
福岡県	2,524	神奈川県	4,194
北海道	2,206	福岡県	3,154
兵庫県	1,844	千葉県	2,343
<b>宮城県</b>	<b>1,660</b>	北海道	2,196
京都府	1,330	兵庫県	1,314
広島県	1,120	<b>宮城県</b>	<b>1,174</b>
埼玉県	1,019	広島県	837
千葉県	1,007	新潟県	614
静岡県	709	静岡県	597
岡山県	654	京都府	575
新潟県	641	茨城県	450

舞台芸術公演県別順位 (2019年)  
(上位15都道府県)

公演回数		動員数	
単位：回		単位：千人	
全国合計	74,806	全国合計	27,857
東京都	48,142	東京都	13,739
大阪府	9,486	大阪府	4,336
京都府	2,566	兵庫県	1,650
愛知県	2,106	福岡県	1,255
福岡県	1,856	愛知県	1,099
兵庫県	1,729	神奈川県	953
神奈川県	1,270	京都府	795
千葉県	1,231	埼玉県	581
北海道	1,113	北海道	523
<b>宮城県</b>	<b>759</b>	千葉県	424
埼玉県	671	<b>宮城県</b>	<b>325</b>
沖縄県	425	広島県	237
愛媛県	324	静岡県	134
広島県	310	新潟県	117
秋田県	304	長野県	101

出所) 「ライブ・エンタテインメント市場規模の調査」ぴあ(株)・ぴあ総研、2020年  
注：動員数とは公演回数×会場キャパシティである

### ②東北における宮城県の位置づけ

平成31/令和元(2019)年の音楽・舞台芸術の公演回数・動員数において、東北6県の合計に占める宮城県の割合は、公演回数で音楽56%、舞台芸術57%、動員数で音楽62%、舞台芸術54%であり、東北では他5県の合計を上回る大きな規模を有しています。

東北6県の実績 (2019年)

ジャンル	音楽		舞台芸術	
	公演回数(回)	動員数(千人)	公演回数(回)	動員数(千人)
青森県	186	237	76	51
岩手県	340	156	74	50
<b>宮城県</b>	<b>1,660</b>	<b>1,174</b>	<b>759</b>	<b>325</b>
秋田県	192	72	304	98
山形県	205	83	39	23
福島県	368	172	83	53
合計	2,951	1,894	1,335	599

左表における東北6県に占める割合

ジャンル	音楽		舞台芸術	
	公演回数(%)	動員数(%)	公演回数(%)	動員数(%)
青森県	6%	13%	6%	8%
岩手県	12%	8%	6%	8%
<b>宮城県</b>	<b>56%</b>	<b>62%</b>	<b>57%</b>	<b>54%</b>
秋田県	7%	4%	23%	16%
山形県	7%	4%	3%	4%
福島県	12%	9%	6%	9%
合計	100%	100%	100%	100%

出所) 「ライブ・エンタテインメント市場規模の調査」ぴあ(株)・ぴあ総研、令和2年

## 6 他市と比較した市民の文化芸術への接触状況と市民意識

市民の文化芸術への接触（鑑賞、創作、参加など）の状況と市民意識については、全国・都道府県単位での統計資料は一部あるものの、市町村単位での統計調査は実施されていないため、仙台市とベンチマーク対象の5市について、他市との比較を目的にウェブ調査を独自に実施し、データを収集しました。

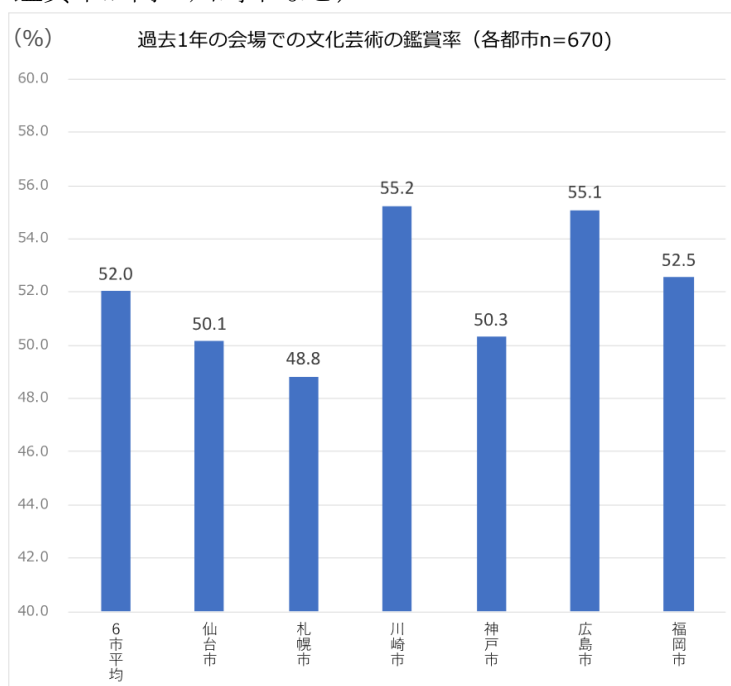
ベンチマーク対象としては、高度経済成長期以来、日本の各地方における行政や経済の拠点として仙台市と並び称される札幌市・広島市・福岡市と、仙台市と同じく1995年に大震災の被害を受けている神戸市、仙台市と同様に音楽を市の文化芸術施策の中心としている川崎市を抽出しました。

### <ウェブ調査概要>

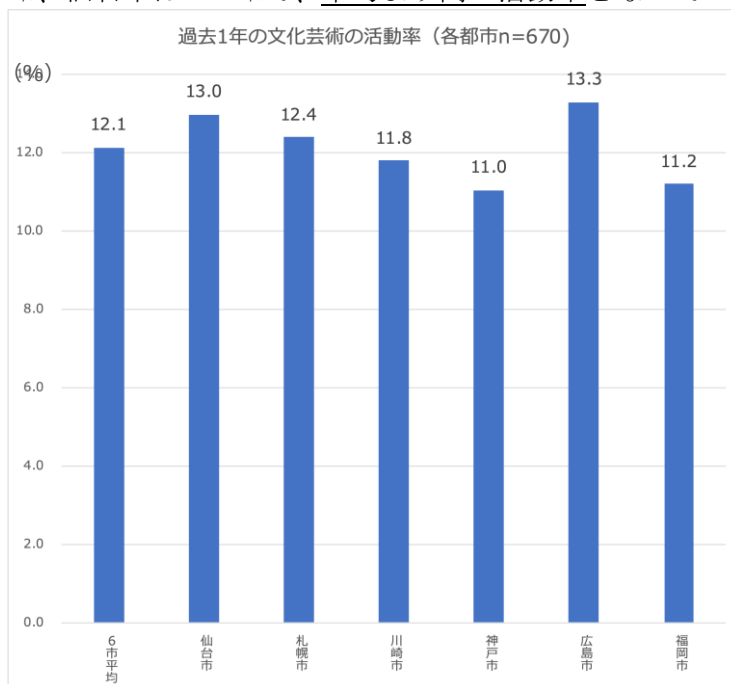
手法	大規模パネルを用いたウェブ調査
対象	仙台市、札幌市、川崎市、神戸市、広島市、福岡市の15歳～79歳の男女各670サンプル ※各市ごとに男女年齢3区分（15～39歳、40～59歳、60歳以上）の6セルに均等割付を実施
調査時期	2022年11月14日～16日
設問概要	<属性> 性別・年齢・居住地・居住年数・職業・家族構成・子どもの有無・末子年齢 <文化芸術接触状況> 鑑賞ジャンル、鑑賞頻度、支払い金額、会員制度、地元オケ鑑賞有無、県外への鑑賞有無・頻度、地元施設利用状況 文化芸術の創作・参加ジャンル、創作・参加頻度、団体・教室利用、子どもの文化芸術活動状況 <地域の文化芸術への意識> 地域の文化芸術環境の満足度 文化芸術面での地域への評価度合い

### (1) 文化芸術の鑑賞状況・文化芸術の活動状況

過去1年間の鑑賞率（会場での直接鑑賞を指し、メディア経由は除く）をみると、全体の鑑賞率（「鑑賞したものはない」「わからない」を除いた回答率）では6市平均が52.0%であるのに対し、仙台市は50.1%とやや低めとなっています。なお、鑑賞率については、後述の県外での鑑賞経験比率が影響する面もあるものと考えられます。（特に県外での鑑賞率が高い川崎市など）

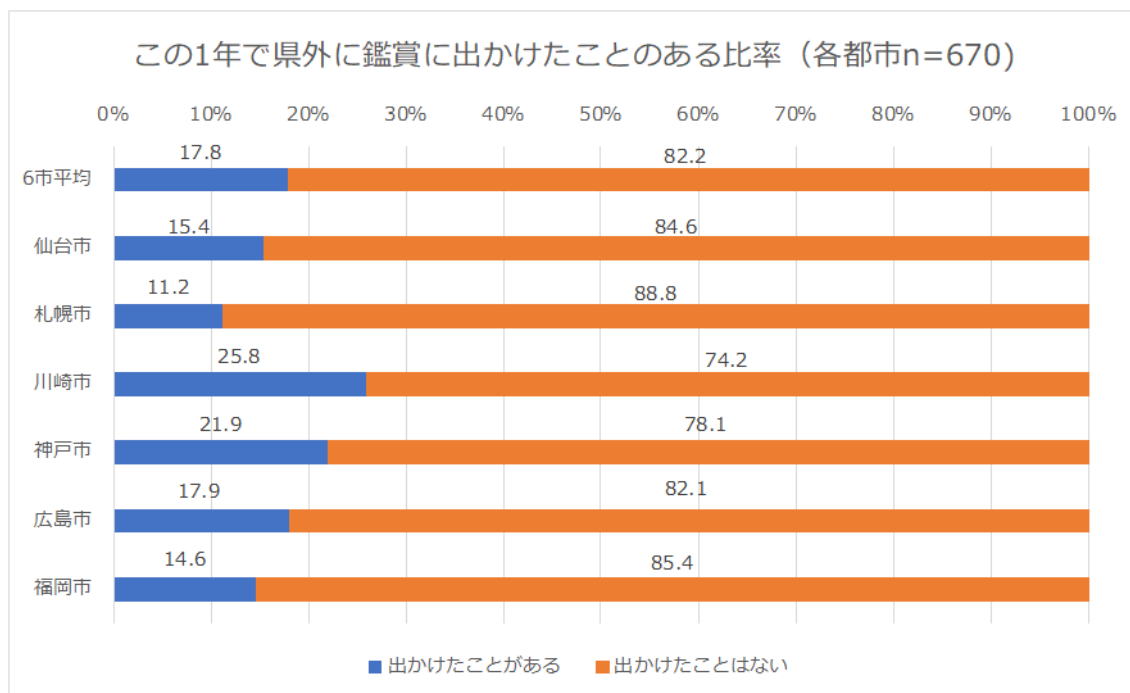


一方、過去1年間の文化芸術の創作、出演、習い事、参加などの活動率をみると、6市平均で12.1%、仙台市は13.0%で、平均より高い活動率となっています。

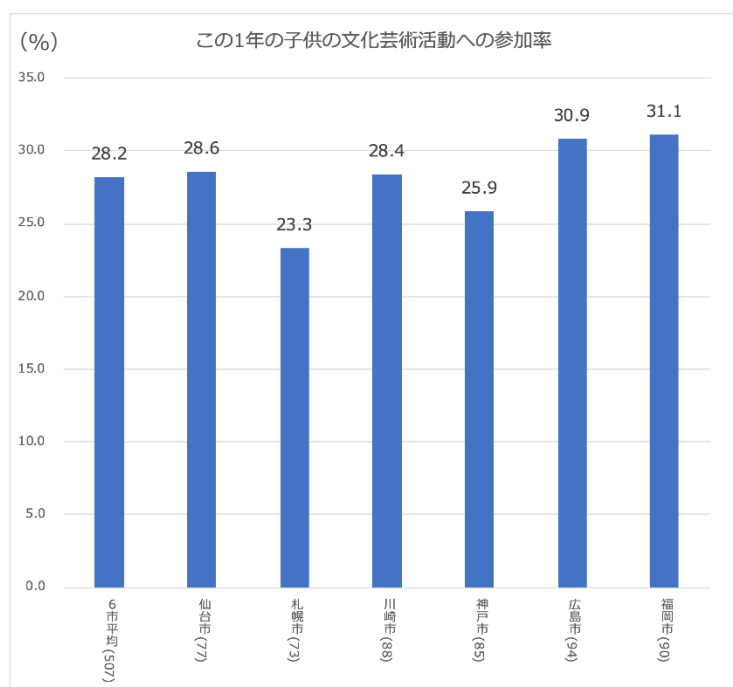


## (2) 県外での鑑賞経験比率

過去1年間に県外で鑑賞したことがあると回答した比率は6市平均で17.8%、仙台市は15.4%で平均よりやや低くなっています。一方、首都圏の一部である川崎市(25.8%)、阪神圏の一部である神戸市(21.9%)はかなり高く、文化芸術の鑑賞の一定部分を東京、大阪など他都市で行っていることがわかります。



## (3) 子どもの文化芸術活動への参加



同居している高校生以下の子どもの過去1年間の文化芸術への参加(部活動以外の習い事など)の状況をたずねました。

6市平均で28.2%の世帯で子どもが何らかの活動に参加していることがわかります。仙台市の子どもの参加率はほぼ平均の28.6%となっています。

#### (4) 市内の主要文化施設の利用状況

各市における市内の主要文化施設（スタジアムやコンベンション施設などを除く1,000席以上の劇場・ホールと美術館）のこれまでの訪問経験を聞いたところ、仙台市では、5施設（宮城県民会館、仙台サンプラザホール、泉文化創造センター、せんだいメディアテーク、宮城県美術館）で回答者の半数以上が訪問経験ありという回答が得られました。半数以上が訪問経験を持つ施設が5施設あるというのは6市の中で最も多く、市民に親しまれている中核的な文化施設が多い状況にあると考えられます。

#### 〈市内の主要施設の利用率〉 (%)

	n数	主要ホール・劇場	主要美術館・博物館	どこも行っていない		
仙台市	(670)	宮城県民会館（東京エレクトロンホール宮城）	62.7	せんだいメディアテーク	56.1	13.7
		仙台サンプラザホール	62.4	宮城県美術館	55.4	
		泉文化創造センター（仙台銀行ホール イズミティ21）	50.4	仙台市博物館	49.1	
		仙台市民会館（トークネットホール仙台）	46.4			
		青年文化センター（日立システムズホール仙台）	40.4			
札幌市	(670)	札幌コンサートホール(Kitara)	53.7	札幌芸術の森	52.5	19.9
		札幌市教育文化会館	52.4	北海道立近代美術館	48.4	
		札幌市民ホール(カナモトホール)	48.2			
		札幌市民交流プラザ (hitaru. SCARTS)	25.1			
川崎市	(670)	川崎シンフォニーホール(ミューザ川崎シンフォニーホール)	33.0	日本民家園	37.6	30.6
		川崎市スポーツ・文化総合センター(カルッツかわさき)	17.9	川崎市市民ミュージアム	31.3	
				川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム	23.7	
				川崎市岡本太郎美術館	22.1	
神戸市	(670)	神戸文化ホール	60.7	兵庫県立美術館	50.3	19.4
		神戸国際会館こくさいホール	59.6	神戸市立博物館	44.0	
				神戸ファッション美術館・神戸ゆかりの美術館	20.4	
				神戸市立小磯記念美術館	17.5	
				横尾忠則現代美術館	8.7	
広島市	(670)	広島県立文化芸術ホール(上野学園ホール)	61.0	広島県立美術館	58.1	17.9
		広島サンプラザ	55.7	広島市現代美術館	42.2	
		広島市文化交流会館(広島文化学園HBGホール)	49.4			
		広島市文化創造センター(アステールプラザ)	46.7			
		広島国際会議場(フェニックスホール)	41.8			
福岡市	(670)	福岡サンパレス	67.5	福岡市立美術館	46.4	18.5
		福岡市民会館	54.6	福岡県立美術館	37.9	
		福岡県国際文化情報センター(アクロス福岡・福岡シンフォニーホール)	45.4	福岡アジア美術館	30.9	
		博多座	35.4			



### (5) 各地域を拠点に活動するオーケストラの鑑賞経験、認知

地元のオーケストラ（仙台市は仙台フィルハーモニー管弦楽団、札幌市は札幌交響楽団、川崎市は東京交響楽団、神戸市は神戸フィルハーモニック、広島市は広島交響楽団、福岡市は九州交響楽団）の鑑賞経験や認知をみると、6市平均では22.7%が、定期・不定期含めて鑑賞したことがあると回答しています。仙台市は24.6%で若干平均を上回りますが、札幌市の30.9%、広島市の26.9%には及ばない状況です。一方、「名前も知らない」という回答については、仙台市は、14.8%ともっとも低く、認知においては他市より進んでいる状況にあります。仙台フィルハーモニー管弦楽団の市内公演数は他のベンチマーク対象の市よりも多く、より地域に密着した活動を行っていることが認知の状況に影響している可能性が考えられます。

(%)

	n数	年数回定期的に鑑賞している	定期的にはないが、何回も鑑賞している	以前鑑賞にいったことがある	鑑賞しにいったことはない	覚えていない、わからない	そもそもその楽団の名前を知らない
6市平均	(4020)	1.3	4.7	16.7	49.1	4.3	23.9
仙台市	(670)	1.6	4.3	18.7	56.7	3.9	14.8
札幌市	(670)	0.7	6.0	24.2	46.4	5.2	17.5
川崎市	(670)	1.6	3.4	13.3	47.8	4.2	29.7
神戸市	(670)	1.3	2.7	8.2	40.1	4.9	42.7
広島市	(670)	2.1	5.5	19.3	53.1	4.6	15.4
福岡市	(670)	0.6	6.0	16.7	50.4	3.1	23.1

	仙台市	札幌市	川崎市	神戸市	広島市	福岡市
団体プロフィール	<b>(公財) 仙台フィルハーモニー管弦楽団</b> 1973年創立 ▶定期演奏会場 日立システムズホール、イズミティ21	<b>(公財) 札幌交響楽団</b> 1961年創立 ▶定期演奏会場 札幌コンサートホール Kitara 札幌文化芸術劇場 hitaru	<b>(公財) 東京交響楽団</b> 1946年創立 ※川崎市とフランチャイズ契約 ▶定期演奏会場 サントリーホール、ミューザ川崎	<b>(一社) 神戸フィルハーモニック協会</b> 1979年創立 ※日本オーケストラ連盟非所屬 ▶神戸文化ホール	<b>(公社) 広島交響楽団</b> 1963年創立 ▶定期演奏会場 広島文化学園 HBG ホール(広島市文化交流会館)	<b>(公財) 九州交響楽団</b> 1953年創立 ▶定期演奏会場 アクロス福岡、福岡サンパレス
2019年公演数	市内 77公演 市外 37公演	市内 52公演 市外 61公演	市内 28公演 市外 121公演	市内 8公演 市外 (被災地訪問公演)	市内 49公演 市外 43公演	市内 44公演 市外 72公演

出所) (公社) 日本オーケストラ連盟 日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑各年版、神戸フィルハーモニックウェブサイト

## (6) 住んでいる地域の文化環境の満足度

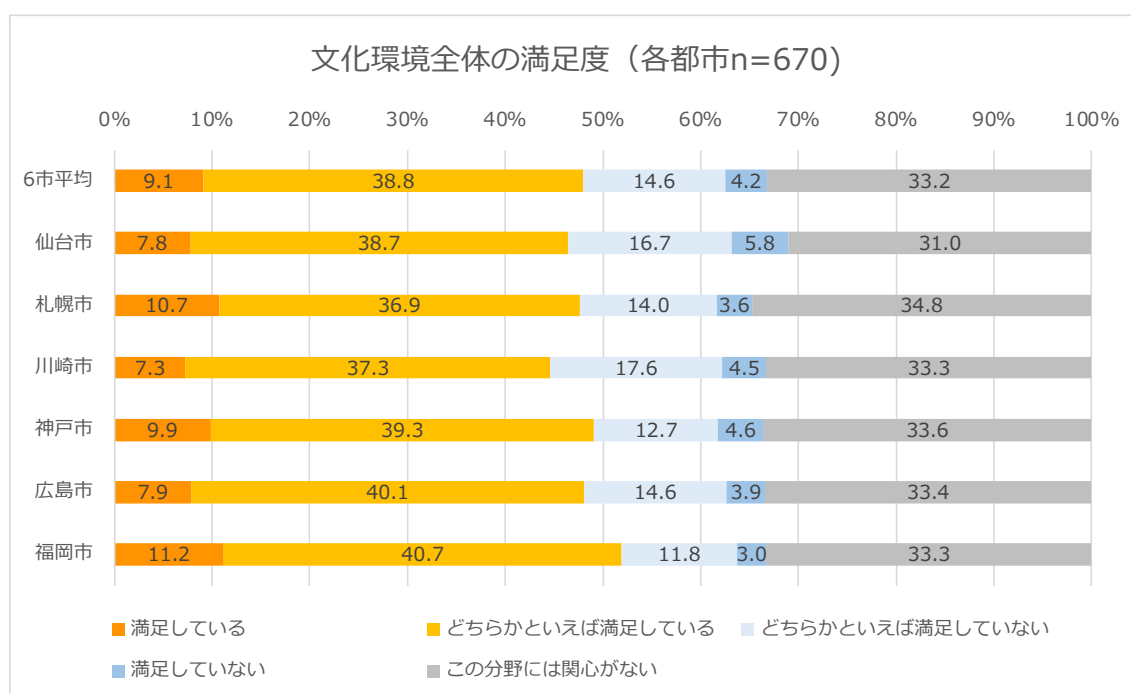
住んでいる地域の文化環境について、計9つの設問を設けてその満足度や評価をたずねました。結果、いずれの設問においても、6市とも満足合計が不満合計を上回る結果となりました。文化環境の満足度や評価については、文化庁の「文化に関する世論調査」においても同様の設問で調査を行っていますが、県単位の回答では、満足と不満が拮抗する結果となっています。全県に対して都市化が進んでいる各政令指定都市では、文化に関わる環境整備が進んでおり、そのことが満足度の高さにつながっている可能性が考えられます。

また、仙台市はいずれの設問においても「この分野には関心がない」と回答した人の割合が最も低く、他市と比較して文化芸術への関心度は高い傾向にあると考えられます。

設問ごとの傾向をみると、教室の多さやワークショップの機会、施設の良さなど文化芸術の実践の環境に対する満足度を問う「創作や実演の環境」、子どもと行ける施設・イベント・教室への満足度を問う「子どもたちの文化環境」、バリアフリー、無料・低料金の施設・イベントなど誰もが文化芸術に親しめる環境づくりへの満足度を問う「アクセシビリティ」については、6市平均の「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計がいずれも3割台にとどまっております。今後こうした点にかかる施策の推進が求められるものと考えられます。

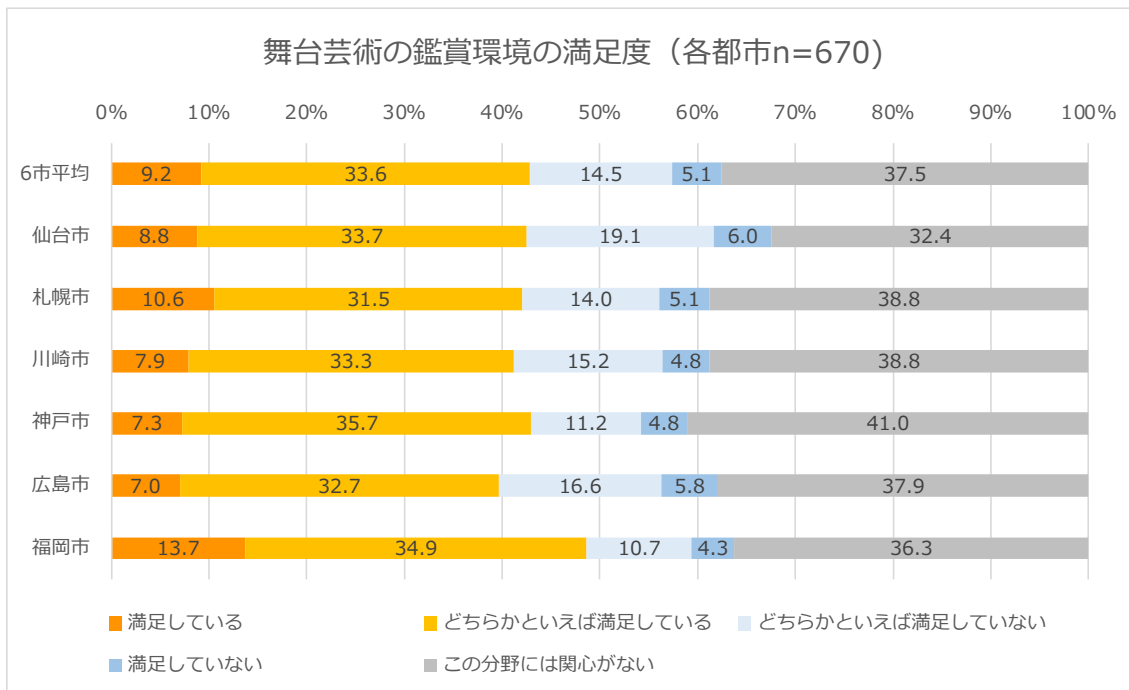
### ▶地域の文化環境全体

文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や文化財・伝統的まちなみの保存・整備など地域の文化環境全体の満足度



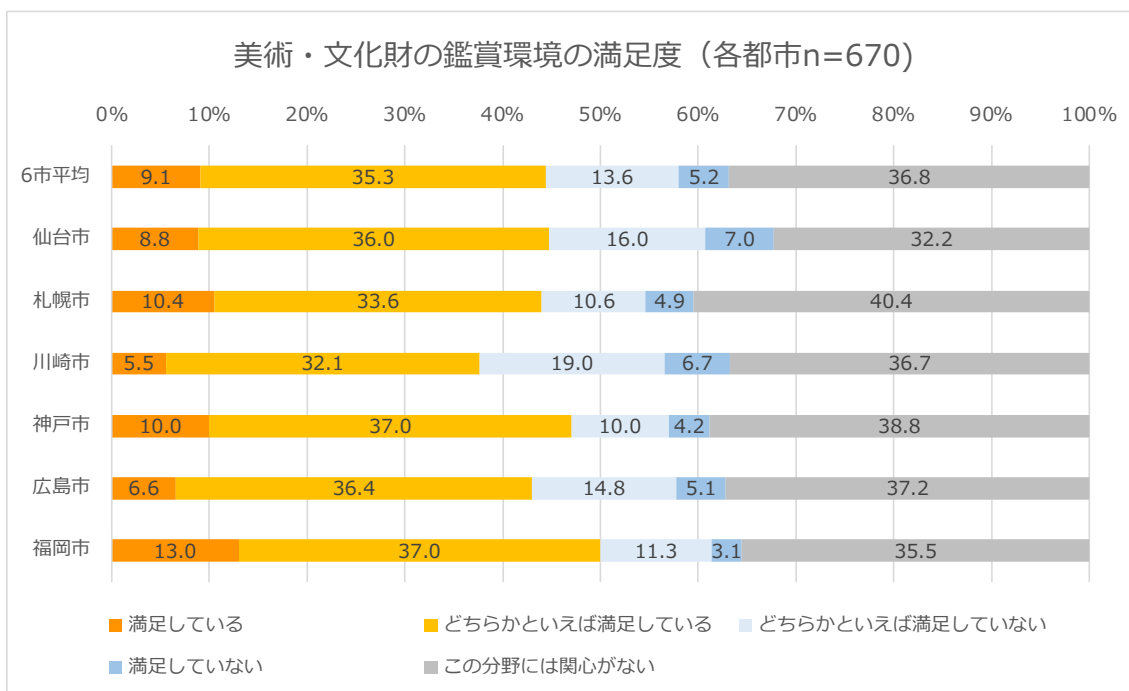
### ▶舞台芸術の鑑賞環境

音楽、演劇、ダンスなどの鑑賞環境（施設の良さ、多さ、イベントの多さや多様性など）についての満足度



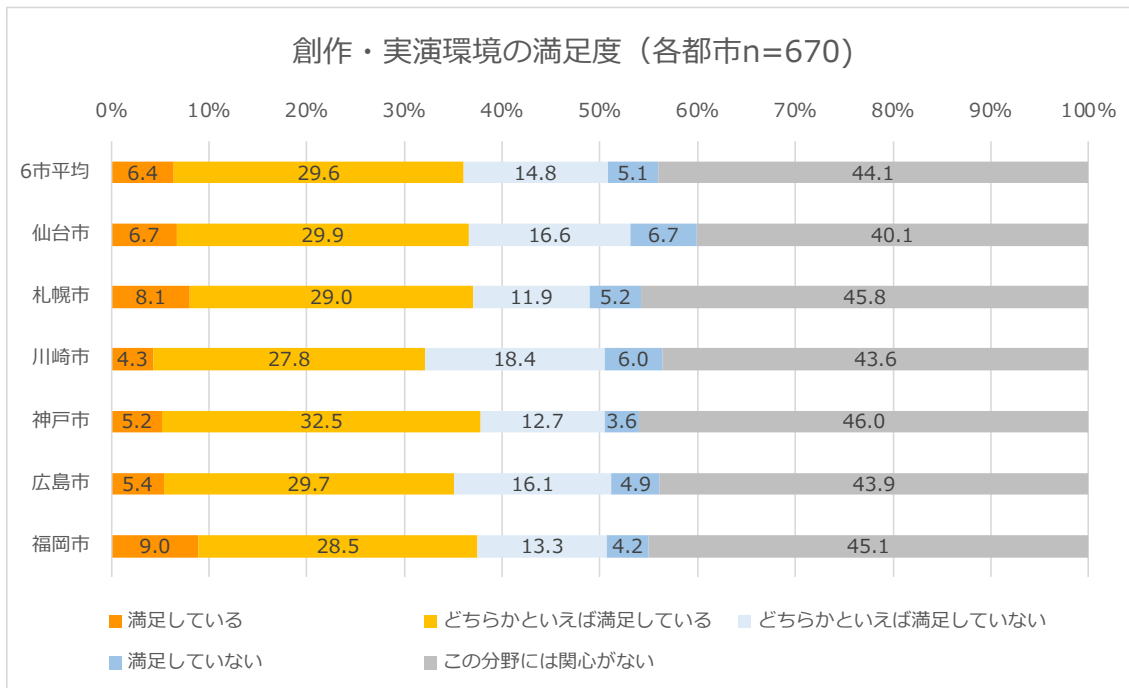
### ▶美術・文化財の鑑賞環境

美術、文化財などの鑑賞環境（施設の良さ、多さ、イベントの多さや多様性など）についての満足度



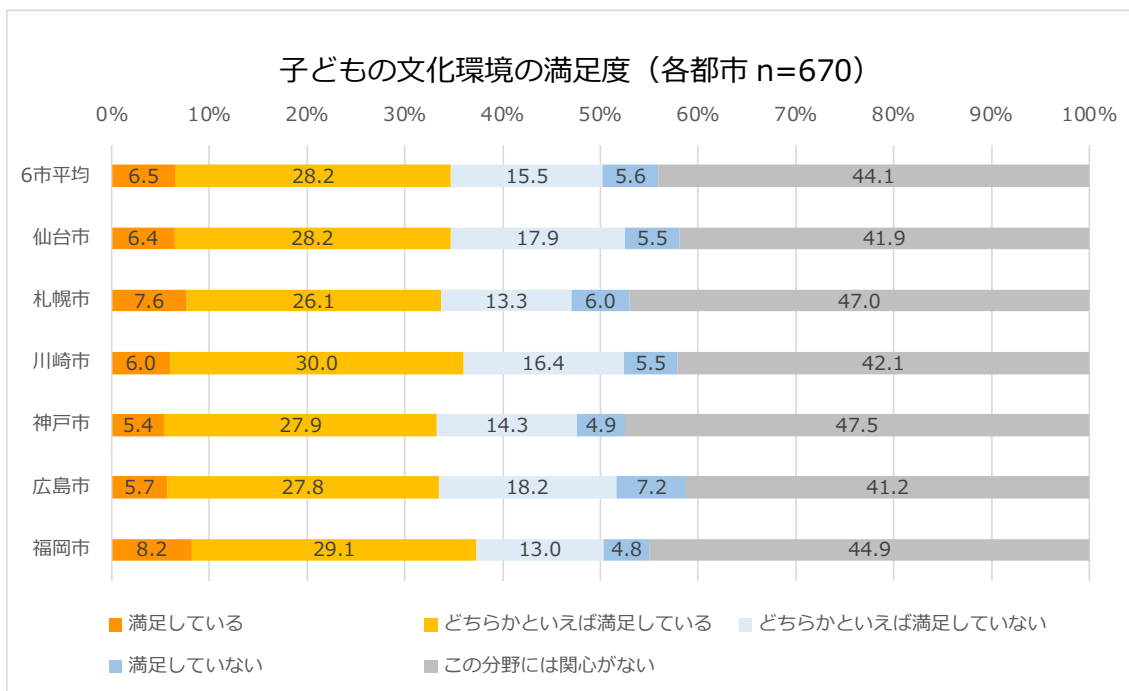
### ▶創作や実演の環境

文化芸術の創作や実演の環境（教室や文化団体が多い、ワークショップなどの機会が多い、施設が良いなど）についての満足度



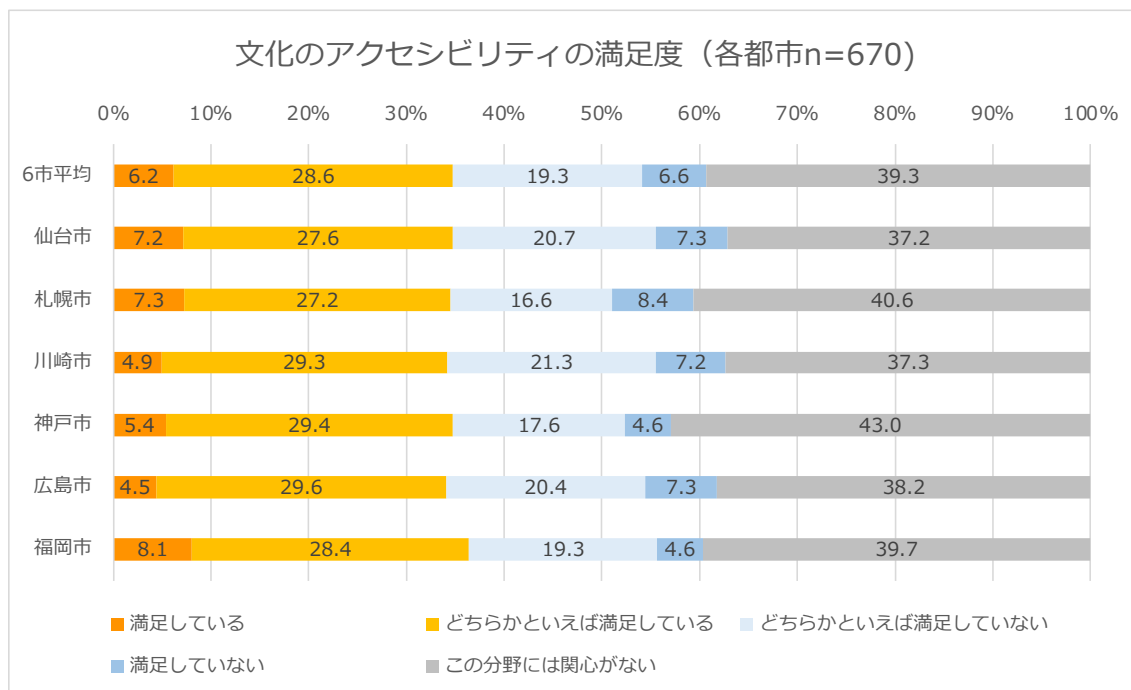
### ▶子どもたちの文化環境

子どもたちの成長につながる文化芸術環境（子どもと行ける施設、イベントや教室の充実など）についての満足度



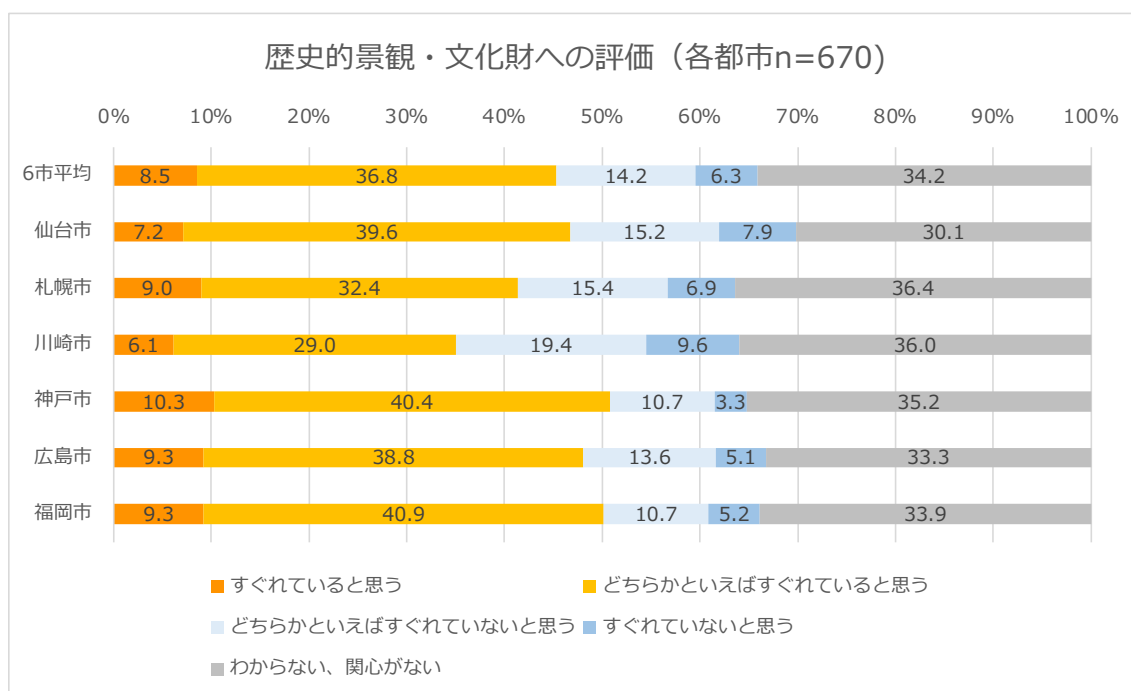
## ▶アクセシビリティ

誰もが文化芸術に親しめる環境づくり（バリアフリー、無料・低料金の施設・イベントなど）についての満足度



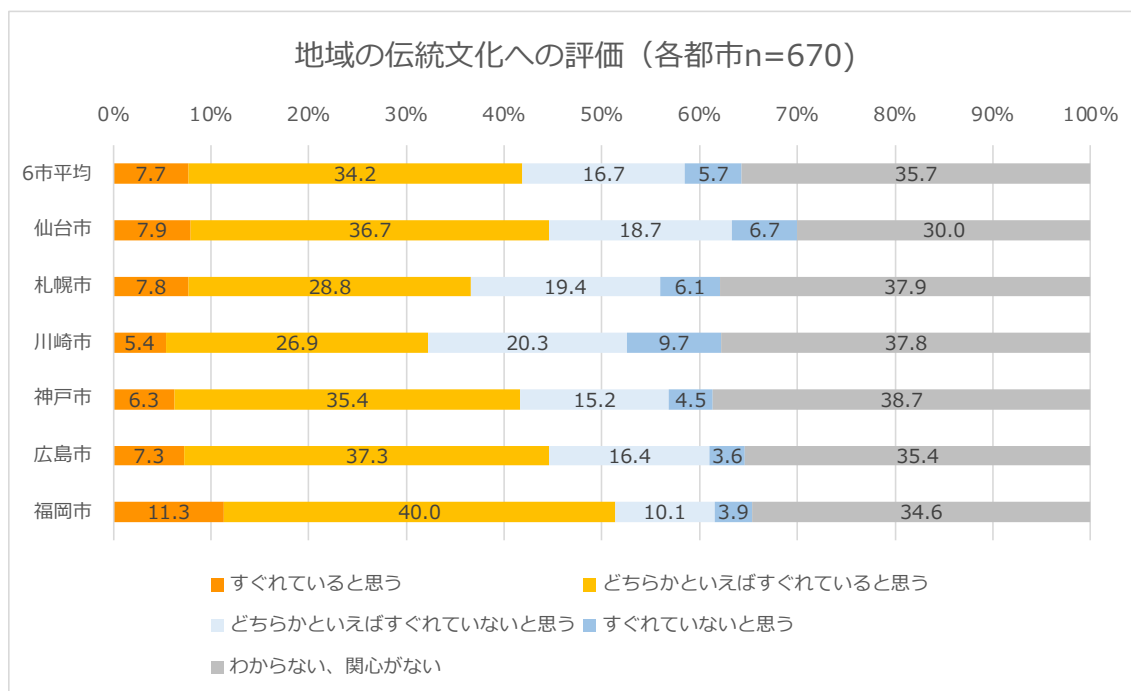
## ▶文化財、歴史的建造物・まちなみのよさ

住んでいる地域の文化財、歴史的建造物・まちなみのよさ（貴重な・有名な文化財や名勝地が多い、保全の状態がよいなど）の評価



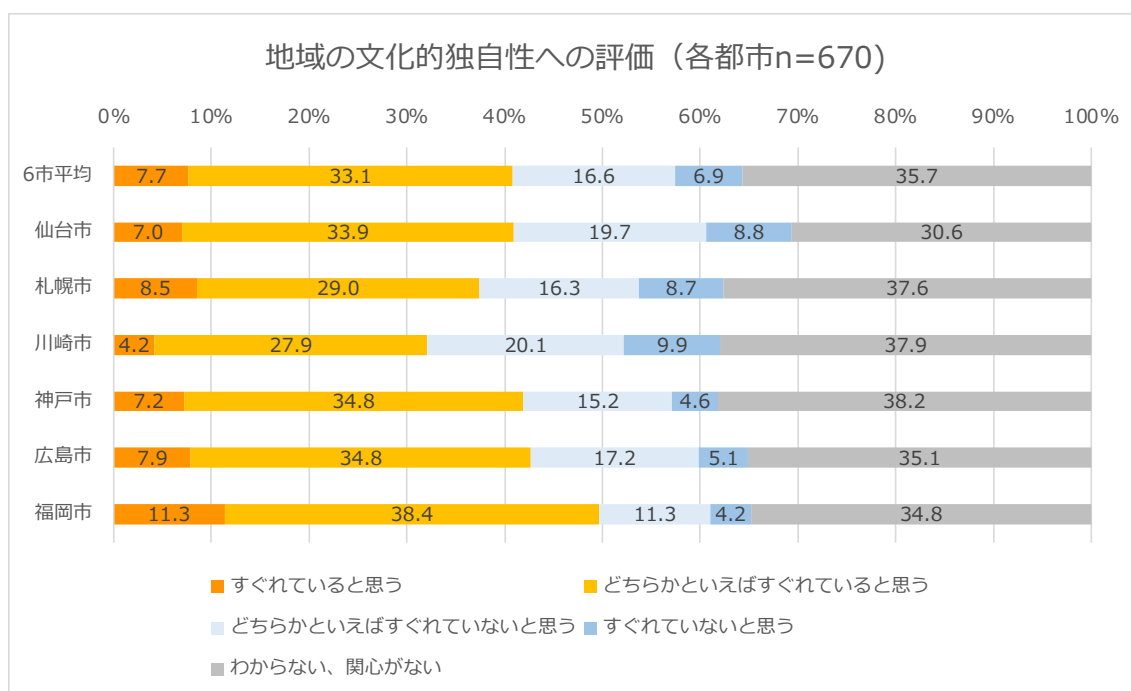
## ▶地域の伝統文化

住んでいる地域の伝統文化（伝統芸能・民俗、祭り、伝統工芸、食文化など）の評価



## ▶地域の文化的な独自性

住んでいる地域の文化的な独自性（他の地域にない個性、文化面での全国的な知名度など）の評価



## 7 全国・他市との比較を通じて考えられること

全国および他市との比較を通じて本市の文化芸術を取り巻く現状として考えられることは、以下のとおりです。

### ・文化芸術の活動率が高い

ベンチマークとした他市との比較調査において、鑑賞率は6市平均を下回ったものの、活動率では平均を上回る結果となりました。これは、「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」や「仙台ゴスペル・フェスティバル」、「とっておきの音楽祭」など、本市において市民が主体となって継続して開催してきた大型文化イベントに代表されるように、市民による活発な文化芸術活動の実態を表した結果と考えられます。

### ・興味関心も高い傾向にあるが、実際の鑑賞行動等に結び付いていない可能性がある

ベンチマークとした他市との比較調査において、訪問実績のある施設が多いことや、地元オーケストラの認知が進んでいること、地域の文化環境についての設問では「この分野への関心がない」という回答が最も少ないという結果が得られたことから、本市の市民の文化芸術に関する興味関心は、比較的高い状態にあると考えられます。一方で、認知度を踏まえると地元オーケストラの鑑賞率がそれほど高くはないなど、認知や興味関心を持つ段階から実際の鑑賞行動等にうまく結び付いていない可能性があります。市民の文化芸術へのアクセスを改善するための工夫が今後求められるものと考えられます。

### ・大きな市場性を有し、今後さらなる充実が期待できる都市である

少子高齢化や将来推計人口の減少など、本市においても全国的な課題と同様の課題を抱えてはいるものの、第3次産業の高い集積率や「学都仙台」の呼称に表される教育・研究機関の充実、多様な主体との連携の可能性を示すものです。また、文化関連の就業者数が比較的堅調に推移していること、実演芸術の公演回数等も全国において上位に位置しており、大きな市場を有する地域であることを踏まえると、今後の取り組み次第で文化芸術面のさらなる充実を図ることが可能であると考えられます。